

第2回サヘルのための連合閣僚会合における鷲尾外務副大臣ステートメント

議長、

昨年に日本がサヘルのための連合に参加して以来、同連合において自分が初めて閣僚レベルで日本政府を代表することを大変光栄に思います。

直近の G5 サヘル首脳会合で確認されたとおり、サヘル地域では、平和に向け大きな進展が見られています。他方、サヘル地域は依然として複合的な課題に直面しています。テロリストの活動は、一向に衰える兆候がありません。新型コロナは、同地域の人々の生活に甚大な社会・経済的影響をもたらしています。

この多元的な危機を克服するためには、総合的なアプローチが適切です。「民生分野の強化」の視点を踏まえ、平和を維持し人々を保護することができる、強固かつ信頼性のある国家の制度を構築することが不可欠です。

このような観点から、茂木外務大臣は、最近のアフリカ訪問の機会を捉え、「アフリカの平和と安定のための新たなアプローチ（NAPSA）」の下、アフリカ主導の平和構築の取組を後押しするとの決意を再確認しました。

2019 年に横浜で開催された TICAD7 で日本が提唱した NAPSA は、制度構築支援を通じて、紛争やテロの根本原因に対処することを目指しています。バマコ平和維持学校を含むアフリカの PKO 訓練センターへの日本の支援は、こうした取組の一環です。また、日本は、警察や司法分野の人材育成や、パトロール車両等の機材を供与するといった支援も実施しています。

また、NAPSA は、強靱かつ包摂的な地域社会の構築を支援します。今般、日本政府は、人間の安全保障の原則に基づき、G5 サヘル諸国に対し、約 8,000 万米ドルの人道援助及び開発支援の新たなパッケージへの支援を実施することを決定しました。

議長、

サヘル連合は、G5 サヘル諸国及び国際パートナーの取組を結集させながら、人道・開発・安全の連携を再生し実行に移すための有益なプラットフォームです。連合のメンバーとして、日本は、来年の TICAD8 を見据え、サヘル地域において NAPSA の下で貢献することを約束します。

御静聴ありがとうございました。

(了)